

保護者・地域のみなさんへ GIGAスクール2年目を迎えました！

荘内中はさらに一歩先へ！

昨年度から全国でGIGAスクール構想が推進されています。これって何でしょう？まだご理解いただけていないかもしれません。GIGAとは、「すべての人にグローバルで革新的な入り口を」という意味であり、「誰一人取り残すことなく子どもたち一人一人に個別最適化され、創造性に富む教育ICT環境の実現」により、新しい学びを推進し、これからの社会で強く生きていく力の育成が学校教育に求められています。荘内中学校区では9年間の中学校区一貫教育の流れの中で新しい学びを推進し、生徒たちに未来の社会を生きる力を育成します。

GIGAスクールって？どうして必要？

これからの社会は？

AI進化や経済の国際化による産業構造激変、人口減少や高齢化等、誰もが予測困難な時代に突入！ロシアのウクライナ侵攻で国際情勢も不安定になっていきます。

子どもたちはそんな社会でどう生きていく？

知識の多さより、解のない課題の解決に意欲的に取り組み、切り抜けていこうとする力が必要
それは、新しい仕事を起業したり、これまでの業務を見直して新しい業務を創り出す力に繋がる。

時の流れはあまりに速い！今ある仕事もどんどん無くなり、新しい仕事が生まれてくる。この玉野市ですら人口減少が加速化し、十数年後にはどうなっているか分からない。

学習指導要領では、子どもに育むべき資質能力を次の三つの柱で示され、評価の観点とされています。

- ◆何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
- ◆知っていること、できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
- ◆どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性）

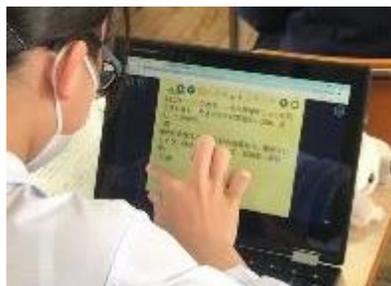
知識だけではだめ、解のない課題の解決のためにどう取り組み、実際にどう表現し、動くのかを評価するため、協同的な学びや体験的な学びを提供していきます。例えば、SDGsの課題解決型学習やキャリア教育の推進です。高校入試、大学入試も今後変化していきます。

学校では、GIGAスクール推進により貸与された子ども一人一台学習用端末を活用し、これまでの知識伝達型の学習から自己探求型の学習へ学習活動を転換しています。これは、端末を活用する能力を身に付けさせるのではなく、端末を文房具と同様に活用しながら、学習指導要領が求める資質・能力を育成し、これからの予測困難な社会を生きていくための力を育むためにあるものです。

荘内中学校区では、こうした次世代型教育を推進し、学習指導要領の具現化に取り組んでいます。

荘内中:学習用端末活用の取組を紹介

貸与されている学習用端末はどんなもの？



子どもたちに貸与された学習用端末はChromeBookという端末です。従来のパソコンと違い、インターネット上のクラウドを活用することが前提ですので、パソコン内にソフトやデータは入っていません。つまり空箱です。すべてクラウド上で管理されています。また、インターネット上で常に最新のセキュリティプログラムで保護されるため、セキュリティー保護は安心できます。

また、基本的には「Google Workspace for Education」システムを活用するため、貸与端末だけでなくご家庭のパソコンやスマートフォン等でもログインすれば、端末を持ち帰らなくても、学習を続けることができます。

※与えられているIDやパスワードは厳重に管理し、流出しないようにしなければなりません。

貸与端末はインターネットに接続していないとほとんど使うことができません。学校内のWi-Fi環境や家庭内のWi-Fi環境でのインターネット接続が必要です。ご家庭でも環境整備をお願いします。

※様々な事由により家庭でのWi-Fi環境整備が困難な場合は、市教育委員会によるルーター貸与の支援があります。

子どもは学習用端末で何をしているの？

Classroomによる学習の取組



子どもたちの端末（クラウド）の中には、GoogleのClassroomというシステムにより各教科、学級、学校等の部屋が設置されています。教師は、この部屋の中で様々な学習支援等に取り組みます。

- ◆様々なこまめな連絡
- ◆授業の予習・復習課題、宿題等の提示
- ◆単元テストの実施
- ◆学習内容の深化のためのヒント等の提示



このClassroomは「Google Workspace for Education」のシステムの一つで有り、子どもたちは提示された課題の作成のために「ドキュメント」（文書作成）「スプレッドシート」（表計算）「スライド」（プレゼンテーション作成）等のシステムを駆使して学習を進めます。

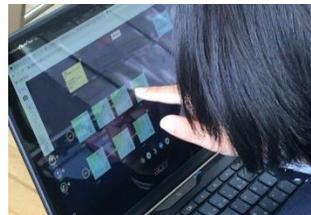


調べ学習で、プレゼンテーションを作成して発表したり、体育の実技で動画提出、音楽の歌を音声提出、技術や美術の作品を写真提出するなど、これまでにない工夫をしています。



自主的にWeb検索で疑問を自己解決

授業中にわからないことを自分でWeb検索して解決したり、休み時間に気になる事柄について検索して理解を深めています。



授業で「ロイロノート」アプリを活用

授業中、「ロイロノート」という学習支援アプリを活用して、考えをまとめたり、友人たちの意見を共有して考えを深めたりしています。課題の提出も行えます。



端末を文房具として活用し、協同学習で周囲と議論しながら自分の考えを深める！



学習用端末を使うことで、周囲との繋がりが薄くなるのでは？という意見をよく聞きます。

まさに逆です。授業では、グループで課題について話し合い、端末で意見を効果的に集約したり、疑問点はWeb検索したりしながら、解を導き出すなど、これまで以上に協同学習を進めていますので、生徒たちのコミュニケーション能力も向上していきます。

荘内中:学びを止めないオンライン授業の実施等

コロナ禍の中で、どんな状況になっても生徒の学びを止めない取組を行うため、これまでもオンライン授業の試行や欠席生徒への授業配信等を行ってきました。先生方のオンライン授業実施スキルも少しずつ向上しています。今後も試行を繰り返し、オンライン授業を受ける生徒のスキルアップや先生の授業力アップに取り組んでいきます。4月にはオンライン学級懇談会も開催しました。



【オンライン授業】

- ①教師が学級全員の生徒を対象として行う双方向のオンライン授業（臨時休校時等に実施）
- ②授業をオンライン配信し欠席生徒等が双方向で参加するオンライン授業（長期出席停止生徒への支援）
- ③授業動画をWe b上で配信（欠席生徒への支援や授業の振り返り等で活用）
- ④学級の生徒の半数が教室で参加、半数はオンラインで参加するオンライン授業（分散登校等に対応）
※ハイブリット型授業といわれる形態（2学期以降、随時試行を実施予定です。）

※校内でも密を避けるため、オンライン全校集会やオンライン生徒会会議等を行っています。
また、夏期休業中はオンライン学活、個別面談等も行っていきます。

アフターコロナの社会ではオンライン会議等のやり取りが日常化することでしょう。しっかり生徒たちにこれからの社会で必要となるスキルを身に付けさせていきたいと思えます。

荘内中のG I G A
スクール推進の紹
介動画です。

4月に行った「荘内中こ
みゆとれ」の動画です。3
年生が1年生に端末活用を
教えています。

昨年度実施した社会
人オンライン交流活
動の様子です。

※本動画は、保護者・地域の方限定で公開しますので、視聴のみの利用をお願いします。
(無断でアップロードすることをご遠慮ください。)



荘内中学校区一貫教育の中で

G I G Aスクール構想はコロナウイルス感染症の拡大の中で一気に昨年度から始まりました。学校教育の中で効果的に学習用端末を活用する次世代型教育を実現するにはまだまだ時間がかかります。また、キーボード入力のスキルを義務教育段階のどこで身に付けさせていくのか等、これから中学校区一貫教育の中でどう段階的に情報活用能力を育成するのかを明確に計画しなければなりません。9年間の指導計画は完成し、荘内中学校区の先生方で共有しています。

※今年度に1年生は、キーボード入力を小学校で訓練されているので、年度当初からChromebook活用が日常化しています。

今後も、未来の学校づくりを小中学校の先生方で進めていきます。

荘内中が進める学びスタイル: 先行学習を基盤とした協同学習

荘内中では授業でのChromeBook活用が日常化し、家庭への持ち帰りも常態化しています。各教科の課題提出もクラウドで行うことも多くなりました。次に紹介する文部科学省や企業が提供する学習サイトを導入することで、さらに未来のまなびを実現し、生徒にこれからの社会で生きていくための新しい学力を身に付けさせていきたいと考えています。

授業で協同学習

Google Workspace等を活用して学習活動を徹底



授業ではこれまで説明した様々なGoogleアプリの活用やロイロノート等でChromebookを活用していきます。

- 協同学習で学習内容を深掘り
- AIドリル等で個別最適化学習
- 国のテスト問題を活用

先行学習を基盤として協働的な学びの時間を確保します

家庭で先行学習

クラウド学習教材で家庭学習に取り組みやすくなり、自分に適した問題に挑戦できます。

家庭学習でChromeBook活用



講師がわかりやすく教科書を解説!

クラウド学習教材で先行学習や個別最適学習

生徒たちは、家庭学習で先行学習（予習活動）を行います。教科書を自分で読解した後、スタディサプリでWeb上の講師による説明動画を視聴し、確認小テストを行います。これを基に授業に臨み、学習内容をさらに深めるのです。

荘内中で導入

ミライシード

AIドリル
(ベネッセ社)

- 個別最適化された問題の提供
- 取り組んだ学習履歴の蓄積、確認

スタディサプリ

Web学習システム
(リクルート社)

- 豊富な授業動画で家庭学習
- 確認テストで生徒自身が理解度を分析

教材費：毎月500円程度

まなびポケット
でデータ連携
(NTTドコモ)

自分のペースで
徹底学習!

予習はバッチリ!
(先行学習)

荘内中ほか全国の多くの学校で導入

MEXCBT「メクビッド」

文部科学省
文科省が開発したコンピュータベースのテストシステム
児童生徒はクラウド上でテスト問題に取り組む。

各自治体や国立教育政策研究所等が作成したテスト問題を提供

デジタル教科書

文部科学省
教科書はデジタル化に向け検討中
※R4年度英語・音楽で
デジタル教科書を教科書と併用

スタディサプリの動画等は、高校入試にも対応しています。過去の学習内容の復習にも活用できます。その気になれば、いくらでも自主学習を進められます。メクビッドには2万以上の問題や学習内容の説明動画等があります。これも自由に使えます。ミライシードは学習を進めるたび、その生徒に合った問題が出題されるようになります。これらのクラウド学習教材を意欲的に活用すれば、大きな成果が出るものと思われます。

もちろん、授業等でも活用します。昼休みや放課後にスタディサプリで勉強している生徒もいます。



スマートウォッチ

体育の教材として同型の機種を購入(3000円程度)

- 生徒の体力低下が大きな課題、コロナ禍の中で体温等管理が必要
万歩計、体温、心拍数、カロリー消費等が表示され、健康意識に成果が期待
- ノーチャイム校とし、時計を持つことで時間管理意識を育成

検討中